

予算決算委員会産業建設分科会会議記録 (決算審査)	
1. 日 時	令和元年10月9日(木) 9:28開会 令和元年10月9日(木) 15:25閉会
2. 場 所	議員協議会室
3. 出席議員	大上和則座長、吉田知代副座長、渡辺拓道委員、足立義則委員、園田依子委員、森本富夫議長
8. 会議に付した事件 認定第 1号 平成30年度篠山市一般会計歳入歳出決算認定について 認定第 3号 平成30年度篠山市下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について 認定第 4号 平成30年度篠山市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について 認定第 9号 平成30年度篠山市水道事業会計決算認定について	
9. 議事の経過 ■開会 9:28 大上座長 あいさつ 大上座長 開議宣告 ■認定第1号 平成30年度篠山市一般会計歳入歳出決算認定について まちづくり部 【主な説明】 まちづくり部 決算説明資料により説明 【主な質疑】 渡辺委員 景観形成事業に関し、屋外広告物の状況について、新設・更新などの内訳はどうか。 まちづくり部 平成30年度の手続き件数の内訳は新設26件、更新59件、変更2件である。 渡辺委員 景観に適合した広告物に誘導するのが趣旨だと思うが、この手続きで趣旨どおり誘導できているのか。 街づくり部 看板などの広告物の許可期間は2年以内となっている。不適格な場合は、2年毎の更新の際に基準に適合する広告物に変更するように指導している。変更の件数は、今年度に関しては2件であるが、平成29年度は4件、平成28年度は5件の件数となっている。なお、本年	

	度の屋外広告物改修等事業補助金の使用は1件となっている。
渡辺委員	効果的な屋外広告物となるよう適正な指導をしてもらいたい。また、景観フォーラム、景観写真コンクールは年数が経過しているが、市民を対象としているイメージがある。良い景観を市外にPRするため、市外の人々の参加を呼び掛けるフォーラムにできないか。また、コンクールは市外からの応募もあると思うが、参加状況は把握しているか。
まちづくり部	フォーラムへの市内外の参加者内訳は把握できていないが、景観写真コンクールは、応募者43名のうち市内が18名で市外が25名となっており、応募者は市外の方が多くなっている。これに伴い応募点数も市外の方からの方が多くなっている。
渡辺委員	景観は市外の人から評価されることもあり、市外の人々の目線で気づく良い景観もあるはずである。景観フォーラム及び景観写真コンクールを通じて市外の人々の目線の景観を見つけ、市民に知ってもらう機会にしてもらいたい。景観写真コンクールの審査は、応募者の市内外の区別なく審査しているのか。
まちづくり部	区別なく審査している。
渡辺委員	担当者も、市外の方からの景観の評価を意識した取り組みを進めてもらいたい。
大上座長	立杭地区や福住地区で実施した景観フォーラムが地域で大変好評であった。その地域の観光振興を意識した当該地域でのフォーラムの開催を検討してもらいたい。
渡辺委員	(繰越明許) 景観形成事業に関し、丹波篠山グランドデザインについて、20年後のイメージは市施策の方向性にも影響を及ぼすと考えるが、何に基づいてパース図を作成しているのか。
まちづくり部	城下町周辺、篠山口駅周辺、農村・里山風景、福住地区、立杭地区の現状の景観を基に20年後の姿のイメージパースを作成している。
渡辺委員	景観的な視点でのイメージなので主に景観計画を反映していると考えられるが、それ以外の計画なども反映させているのか。
まちづくり部	現在進めている施策、計画している施策を含めて作成している。社会的な潮流変化や生活の変化等については兵庫県政の30年計画や丹波の森構想などを反映している。
渡辺委員	市や県の施策の潮流を反映しているのは理解したが、現在存在する計画のみを反映しており、それ以外の計画等は反映していないと理解してよいか。
まちづくり部	現在進めている施策、計画している施策を含めて作成している。
園田委員	都市計画事務費に関し、ハートピア北条団地で売却できていない5

	区画があるが、売却に向けた取り組み状況はどうか。又、地域への草刈り業務の委託について、負担感等の声は出ていないか。
まちづくり部	篠山暮らし案内所などと連携して、移住希望者に向け情報提供を行っている。草刈りについては地元住民が、刈り取った草を市職員で処分するなど地元と役割分担を行っており、不満等も聞いていない。
園田委員	移住希望者に働きかけていくことが大切だと感じる。数年前、建築組合などへの働きかけをお願いしたがその後どうか。
まちづくり部	3年前に働きかけを行い、継続でお願いしているつもりであるが、引き続き販売に取り組んでいくところから再度依頼をしていきたいと考えている。
森本議長	ハートピア北条団地について、担当者として購入希望者が購入を躊躇する理由は何であると考えているのか。又、それに対するアイデアはあるか。また、ハートピア北条団地において篠山の家を建築する旨を聞いているが、そこに家を建築し事業対効果につながるのかという思いもある。
まちづくり部	平成30年度においては、1件の問い合わせがあった。積極的に現地案内の旨を伝えたが、そこまでには至らなかった。購入者の希望もあるので、残念ながらPRが販売に結びついていない現状である。 また、篠山を建築場所の候補地でもあるが、建築内容等について具体的には来年度検討予定である。また、2区画一括購入の希望の問い合わせもあったが、2区画での価格見直しによる販売については既購入者の意向もあり実現しなかった。
森本議長	担当課として今後、智恵をしばってアイデアを出して欲しいとお願いしておく。 次に市営住宅管理費に関し、福住団地の地元負担金とあるが、これはどういったものか。
まちづくり部	建物は3階建てで、うち市営住宅が2階から3階部分である。1階部分は、地元財産管理組合の所有となっておりテナントなどが入っている。今回、市で外壁等の改修工事をするにあたり、一緒に工事をしてほしい旨の要望があったため、1階部分の工事費相当分を負担金としていただいた。
吉田副座長	地域開発費に関し、まちづくり審議会で太陽光発電設備に関する設置基準等の改正について審議されその結果、改正をされたとあるが、改正後の太陽光発電施設の問い合わせやトラブル等はないか。
まちづくり部	基準改正後の太陽光発電施設の設置の相談は数件あったが、設置に係る申請手続きはない。トラブル等も聞いていない。

渡辺委員	景観形成事業に関し、ロマン街道については観光的な視点で、また市長の肝いりで作成されたと理解している。今後の活用についてはどうするのか。
まちづくり部	まず、観光協会にデータを提供し、ホームページで紹介してもらうなど広く PR して活用してもらいたいと考えている。又、作成の際にまちづくり協議会の意見を聞いた経緯もあり、ロマン街道を活用し更に地域資源の掘り起こし等の取り組みに役立ててもらえればと考えている。
渡辺委員	市としての活用はどうするのか。
まちづくり部	観光部局に引き継ぎ、観光施策に活用してもらいたいと考えている。
まちづくり部	ロマン街道は、景観写真コンクールを契機とし、市内の桜や紅葉などの素晴らしい景観を結びルート化することで、PR、地域資源の再発見してもらうことを目的として設定している。観光面の要素が大きいと考えるので、今後観光部局で活用してもらいたいと考えている。
渡辺委員	活用を考えずに作成を進めた感じを受け、作成後の活用プランが無いように感じるが、議会としてそのような使い方は理解しにくい面もある。まちづくり協議会での活用を考えるのであれば、担当部局において活用を検討するなど、もっと有効な活用方法を検討してほしい。
足立委員	住宅一般事務費に関し、危険ブロック塀撤去支援事業について、通学路に接する危険ブロック塀の撤去は完了できたと考えてよいか。
まちづくり部	補助の要件である個人住宅に面する道路に附随する危険ブロック塀については、全て撤去された訳ではなく残っているのが現状である。その道路の中には当然通学路も含んでおり、通学路に面するブロック塀が全て安全とは言えない。危険ブロック塀の撤去に向けた補助事業については本年度も継続して自治会長会、PTA 総会等で PR を行っている。(通学路のブロック塀の有無については、教育委員会で平成30年度に調査把握済。通学路の変更等も含め、教育委員会により学校等に注意喚起行っている。)
足立委員	通学路だけは、大丈夫だと言える状況にしてほしい。
	【主な説明】
まちづくり部	決算説明資料により説明
	【主な質疑】
大上座長	市営駐車場管理費に関し、平成30年度に西町の駐車場が新しく整備され、駐車台数が、前年度より増加すると思われるが、駐車場の収

	入が増加してない理由は何か。
まちづくり部	整備工事の完成が2月であることから、整備の効果による収入の増は3月分のみとなったため、年間の収入金額に大きな変化が現れていない。
渡辺委員	市営駐車場の収容能力は足りている状況なのか。通常の状態ですほどの収容余力があるのか。又、使用率等のデータはあるのか。
まちづくり部	イベント実施日を除く通常の状態であれば、駐車場が満車となることは稀であり、あったとしても、庁舎前駐車場が一時的に満車となる程度である。使用率に関する資料は手元にないため後日資料を提出する。(資料提出済)
渡辺委員	都市施設管理費に関し、篠山口駅自転車駐輪場について、定期利用が減少傾向にある。駐輪場の管理運営に関する課題についてどのように認識しているのか。
まちづくり部	駐輪場の利用が減少しているとともに、設備の老朽化も進んでいると認識している。現状の利用状況であれば、2段に収容しなくても、収容が可能な状態であることから、上段の撤去等の改修を検討する時期にあるものと考えている。
渡辺委員	市外から通学する高校生が減少傾向になっていることが、駐輪場の利用が減少する原因となっている可能性がある。その他の要因も含めて、原因等を分析しているのか。
まちづくり部	市外の高校生の駐輪場の利用については、東口の民間の駐輪場を利用している方が多い。また、定期券による乗降者数が減少傾向にあると聞いている。しかしながら、駐輪場の利用目的等による分析したことはない。
渡辺委員	当時は、ニーズに合わせた形で整備したと思うが、少し駐輪スペースが大き過ぎ管理も難しい部分も出てきているので、利用実態に合わせた形で幾らか余裕を持たせながら、整備した方が景観上もいいのではないかという感じも受けている。まずは、利用状況を調査して検討してほしい。
園田委員	放置空き家対策事業に関し、空き家が増加していると言われていの中で、空き家の件数について把握しているのか。
まちづくり部	実際の空き家の件数を調査したことはない。なお、国の調査である住宅・土地統計調査により、市内の空き家件数が推計されているが、その調査はサンプル調査であり実際の件数を数えたものではない。空き家等の適正管理及び有効活用に関する条例の施行以降、放置空き家対策として住民等から相談等があったものは70件余りあり、現在においても指導等を継続しているものが30件程度ある。
園田委員	これまでも放置空き家に対する強制執行等があるが、所有者の自主的な管理を促進するため、解体費用に対する支援を行うことが有利ではないか。

まちづくり部	老朽危険空き家に対する除却支援制度があるが、国費等の要件に市から指導を受けているものが補助対象で、所有者等の自主的な取り組みが不可欠であることから、いまだ活用事例はない。現在、県において市町からの指導が行われていない空き家への補助対象の拡大を検討していると聞いており、拡充された際は当市においても足並みを揃えることを検討したいと考えている。
足立委員	(繰越明許) ふるさとの川再生事業に関し、候補地の選定が時間を要したとのことであるが、詳しく説明を願う。
街づくり部	昨年に畑川の生き物の調査を農都創造部で行っている。一級河川であり兵庫県丹波土木事務所の管理となるため、市が工事を行うためには占用手続きや湧水期施工などの協議や調整に時間を要した。あわせて兵庫県も関連の予算を確保しており、その場所選定にも時間を要したため、現年予算を繰越したものである。29年度の繰越については、他地区の候補もあったが、詳細を詰められなかったことと、災害復旧事業を優先したことから予算全額が未執行となった。今後、候補地の選定が市だけでは難しいところがあるので、各まちづくり協議会に情報提供の依頼を行い、地域のモデルとなるような環境整備が出来るよう箇所数を増やすことを検討していきたいと考えている。
足立委員	農都創造部が主体となって候補地の調整を行い、まちづくり部が整備するということか。
まちづくり部	事業の主体はまちづくり部であるが、生き物に対する知識がなく調査ができないため、在来種や希少種に適した整備を行うため、専門官に調査を依頼している。
足立委員	事業への理解や効果などを考えると、農都創造部が地域等との調整した後、まちづくり部が施工するほうが、円滑に進むと考えるがどうか。
まちづくり部	畑川は農都創造部が主体となり地域でワークショップを開催しており、まちづくり部もそのワークショップに参加した。生物多様性の知識を有した農都創造部が地域と関わったほうが円滑にいくと考えるので、同様の手法を継続できるよう検討する。
大上座長	公園施設管理費に関し、公園施設管理等の地域団体等への委託について、高齢化や管理費用の増加等により困難になりつつある。今後、委託料の増額等をしてでも地域で管理を継続してほしいと考えているのか。
まちづくり部	実際に、管理を辞退したいとの申出が昨年度にあった。他の地域でも高齢化等により管理が困難になりつつあるとの相談が少なからずある。現時点では、委託料の増額により管理を継続してもらっているが、実情に応じて柔軟に対応することが、今後必要となってくると思われる。
まちづくり部	これらの公園等については地域に密着した施設であることから、できる限り地域に近い方々で管理を継続してほしいと考えている。

渡辺委員	河川総務費に関し、河川環境整備事業について、兵庫県から報償金も増額されたが、高齢化等により作業も難しくなっている部分があると思われる。特に河床の草刈り作業について、かなり危険な状態になっている。河床部分の管理については、軽減できるような方法はないのか。また、河床部分の除草作業はどのように実施するよう指導しているのか。
まちづくり部	河川等環境整備事業については、地域で作業範囲を決めてもらっている。河床の部分の除草について、市から除草作業を指示していない。例えば篠山川の河床については、かなり広範囲であるが、除草作業を全面実施する地域と法面のみを実施する地域がある。地域で、整備が必要な部分を検討し、河川等環境整備事業を実施してもらい市と県で財政的支援を実施している。
渡辺委員	地域で必要とする部分の河床の除草作業を実施するが、全面河床の除草作業を実施しないという判断も地域でできるという認識でいいのか。
まちづくり部	そうである。
森本議長	都市施設管理費に関し、篠山口駅自由通路橋の鉄骨柱補修補強工事において、工事費の615万円余りに対して、設計監理業務委託料が594万円となっている。工事費に近い金額で設計監理業務を委託することに違和感を覚えるとともに、それをA社(株)に随意契約した経緯等を説明してほしい。
まちづくり部	篠山口駅自由通路橋については、JR西日本が設計施工を行ったものであるとともに、JR西日本との共有の建物であることから、その関連会社であるA社(株)に随意契約したものである。
■認定第9号 平成30年度篠山市水道事業会計決算認定について	
上下水道部	
	【主な説明】
上下水道部	決算説明資料にもとづき説明
	【主な質疑】
足立委員	有収率について1ポイント下がった原因は何か。
上下水道部	主な原因は漏水によるものである。平成30年12月に住吉台、平成31年2月に真南条において漏水修繕を実施し、以後改善が見られている。
足立委員	有収水量は火災時における消火栓からの使用量もカウントしているのか。
上下水道部	有収水量にカウントしている。
上下水道部	漏水修理件数は前年度より減少しており、毎朝、職員が校区毎の配

水流量を見て漏水がないか確認しているが、結果として有収率が1%下がってしまった。

市内には約670kmの配水管や送水管があり、給水人口で割ると一人当たりの管路管理延長は県下平均で10mのところ、本市では15mと厳しい条件であるので、漏水については早期発見、早期対応に努めていきたい。

渡辺委員 漏水を発見するための体制はどうなっているのか。

上下水道部 市民からの通報によるものが大半である。

上下水道部 夜間の最小配水流量の監視をしているが、配水流量が増加した区域については漏水調査業者に委託している。

渡辺委員 他の事業者では点検員が回っているケースも聞くが、日常的な仕組みとしてそのような体制にはなっていないのか。仮に点検員による調査をするとすれば、現場で漏水箇所を見つけるにはどれくらいのコストが掛かるのか。

上下水道部 過去に配水区域毎の漏水調査を委託したこともあるが、現在は夜間配水流量で増加した区域の対策としている。又、市内をくまなく巡回している浄水施設維持管理業者にも委託している。

渡辺委員 断水事故調べの西浜谷の件について、原因がその他となっているが何が原因なのか。

上下水道部 地上式消火栓の修繕に伴う断水である。

森本議長 起債残高を見ると2億もの利息を支払っているが、借り換えはできないのか。借り換えができれば、今の半分以下の利息の支払いになるのではないか。検討はしたのか。

上下水道部 県の市町振興課に確認したところ、借り換えするにも条件があり、繰上償還する場合には補償金を払わなければならない。償還が終了しているものもあり、あと4、5年で高い利率のものは終了するので、借り換えに伴う様々な兼ね合いも考慮しながら検討していきたい。

森本議長 借り換えを行うなど負担削減につながる方法を模索してほしい。一般会計は、健全化に向かっているが、他の会計では負債がある。少しでも負担が少なくなるよう最善の努力をお願いしたい。

■認定第1号 平成30年度篠山市一般会計歳入歳出決算認定について

【主な説明】

経営企画課 決算説明資料に基づき説明

【主な質疑】

足立委員 小型合併処理浄化槽整備事業に関し、小型合併処理浄化槽設置補助金について、新設も更新も同じ補助率か。また今後も更新については補助していく方針なのか。

上下水道課 更新も対象となる。本体の故障による更新にも補助を出している。今後も、新規・更新ともに同じ補助率で交付していく方針である。

■認定第3号 平成30年度篠山市下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について

【主な説明】

上下水道部 決算説明資料に基づき説明

森本議長 下水道汚泥共同処理事業に関し、あさぎり乾肥の状況、臭気対策についてはどうなっているのか。

上下水道部 あさぎり乾肥については537件、2,692袋の申込があり、その内502件、2,507袋を配布し、30.1トンの排出汚泥の減量化に努めた。配布量については、丹波篠山市生活環境保全委員会の協議において月に作成する袋数を月200～250袋と決めており、単純計算年2,600袋の作成に対し、妥当な数字と考えている。

森本議長 無料配布となるとリピーターも多いと思われる。あさぎり乾肥の作成には臭気を伴うと思うが、対策は講じているのか。

上下水道部 夏場の暑い環境化でも、作成時の最低限の臭気低減対策は行っている。乾肥の臭気対策として、東雲高校の研究成果である竹チップを10%混ぜ込んでいる。

足立委員 修繕料2,300万円と高額であるが内訳はどうか。

上下水道部 定期整備に2,106万円、その他については車検・施設内修繕となる。主に乾燥施設の年次点検、点検整備に係る費用で、乾燥機、バーナーなどの整備や、し渣コンベアの整備などを行った。

上下水道部 2,300万円と高額であるため修繕料でなく、更新工事ではないのか。定期的な整備を計画しているのであれば、効率よく行われるようお願いする。

又、打ち切り決算との説明があったが、予算額に対して決算額が少なく計上されているのが、その影響か。

上下水道部 そうである。通常であれば4月、5月の出納整理期間に処理するのが打ち切り決算で処理できずに未収金、未払金として生じたためである。

森本議長 職員人件費・特定環境保全公共下水道管理費に関し、特定環境保全公共下水道事業は、新規接続20件との説明を受けたが、これまで接続していなかった家が接続されたのか。

上下水道部 20件のうちおよそ8割が接続されていなかった家屋の水洗化である。既存の家の改修は、2割未満である。

森本議長	未接続の家庭からの相談で、接続したいが資金がない等の声を聴く。特定環境保全公共下水道事業の水洗化率は91.4%と高いが、約1,000名は未接続の状況である。市として未接続者への支援は考えていないのか。
上下水道部	あさぎり苑職員が、汲み取り先に訪問した際に、水洗化の啓発を行っているが、上下水道部では未接続者への支援する補助メニューがない。費用の助成については、他部署のリフォーム助成を案内しているのが現状である。明確には言えないが、そういった支援の必要性も含め今後検討していきたい。
大上座長	職員人件費・公共下水道雨水対策管理費に関し、京口排水ポンプ場の維持管理について、業者委託していると思うが、どのような体制で管理しているのか。
上下水道部	京口排水ポンプ場の管理は、市内下水処理場の維持管理業者3社の内の1社に依頼している。月に2回、ポンプや通報装置の動作について、模擬信号を発して確認、点検してもらっている。昨年西日本豪雨や台風20号、24号の到来時に3回出動してもらったが、緊急時については別途単価契約をしておき、出動時間に応じて別途委託料を支払うこととしている。
■認定第4号	平成30年度篠山市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について
	【主な説明】
上下水道部	決算説明資料により説明
	【主な質疑】
渡辺委員	汚水処理原価について、以前は300円/m ³ と認識していたが、400円/m ³ となっている。これは、元利償還金が大きく影響しているものと思われるが、どうしてこのように高くなったのか。
上下水道部	ご指摘のとおり元利償還金の負担が大きな要因であるが、過去には500円台で推移してきたものが、現時点では400円台に下がってきている。それでも料金収入に対して償還金の方が多いため、汚水処理原価としては高額になっている。
渡辺委員	処理場施設の統合を進めているが、統合することで有利に働くと認識しているがそうではないのか。
上下水道部	統合することで、統合先の施設に集約されるため維持管理費の低減は見込めるが、統合する前に投資した起債などの負債についてはその

まま残るので、汚水処理原価は引き続き高額で推移していくものと考ええる。

■議員協議

■意向確認

- 認定第 1号 平成30年度篠山市一般会計歳入歳出決算認定について
認定第 3号 平成30年度篠山市下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
認定第 4号 平成30年度篠山市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について
認定第 8号 平成30年度篠山市農業共済事業会計決算認定について
認定第 9号 平成30年度篠山市水道事業会計決算認定について

—修正・反対等の意見なし—

大上座長 この結果を含め、執行部との質疑、答弁の内容について、座長報告を行いたい。報告については、座長に一任願いたい。

—異議なし—

■閉会

吉田副座長あいさつ

15:25